

令和5年度に実施したその他の重要な取組

1 学校給食費の公会計化と一括徴収制度の開始【学務課】

保護者の利便性の向上、教員の業務負担軽減による教育の質の向上、学校給食の安定的な実施などを目的として、令和5年4月から学校給食費を公会計化した。

徴収・管理業務を効率的に行うために、学校給食費と併せて学校徴収金及びPTA会費を一括徴収し、学校給食費等徴収管理システムを導入して管理している。年6回（奇数月）のスケジュールで徴収を行っている。

2 小中学校の適正規模・適正配置の検討【教育総務課】

令和2年6月に策定した「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」に則り、児童生徒にとってより良い教育環境を整備し、教育の質の更なる充実を図るため、教育委員会では、学校規模の適正化に取り組んでいる。

令和4年度末には大淵第二小学校を閉校し、令和5年4月に大淵第一小学校へ編入統合を実施した。令和5年度には旧富士市立大淵第二小学校跡利用事業プロポーザル審査委員会を開催し、跡利用事業の優先交渉権者を決定した。現在、地元住民へ事業内容の説明会を実施するなど、事業者・地域・市との三者協定締結に向けて、協議を続けている。

令和5年度末には吉原東中学校の閉校式を実施し、令和6年4月に吉原第三中学校へ編入統合を実施した。この編入統合による生徒数増加に対応するため、教室増設や自転車通学者用の駐輪場設置等の施設整備を行うとともに、教材教具の引越しや新規購入を行った。さらに、編入統合先の吉原第三中学校のセーラー服を必要とする家庭には、セーラー服を貸与するとともに、吉原第三中学校の体操服やジャージ等の指定学用品を全員に支給した。また、吉原第三中学校前の道路を、生徒が安全に横断できるようにしてほしいという学校や地域住民からの要請を受け、担当課や警察へ働きかけて、滞留場所やラバーポールを設置するなどの道路整備を支援した。

さらに、編入統合に関する支援内容や動きに関する広報紙を、地域や保護者へ配布、回覧し、周知に努めた。

吉原東中学校の跡利用に関しては、令和5年8月末からサウンディング型市場調査を実施したところ、複数の事業者から、当該地を活用して事業展開を考えたい旨の問い合わせがあった。今後は、調査結果を踏まえ、資産経営課と協力しながら、跡利用について検討していく。

その他、早急に学校規模の適正化の検討が必要な学校においては、「学校教育の未来を考える会」を継続して開催し、保護者や地域住民から意見聴取を行っていく。

3 部活動の地域移行に関する事業【教育総務課・学校教育課】

令和4年6月及び8月にスポーツ庁や文化庁の有識者会議において、部活動を生徒と教員の双方にとって望ましく、持続可能なものにするために、地域に移行していくことが提言されたことを受け、市教育委員会では、市内の部活動の実態把握や、アンケートによる教職員や生徒の意見聴取などを行ってきた。

令和5年度からは、部活動地域移行検討懇話会を立ち上げ、定期的を開催し、部活動の地域移行・地域連携に向けて、保護者代表、学校代表等、関係部署や関係団体から意見聴取を実施するとともに、受け皿となりうる各種スポーツ団体や文化活動団体の実態把握及び意向確認に努めた。

令和6年度からは、同懇話会を協議会化し、部活動の地域移行・地域連携の動きをさらに推進していく。また、いくつかのスポーツ競技団体や文化活動団体に、部活動の地域移行・地域連携のモデル事業を委託し、実施内容を事後検証することで、地域移行・地域連携に向けた課題や本市に適した部活動の在り方を探っていく。

4 若者相談窓口「ココ☆カラ」の運営【青少年相談センター】

平成27年4月に若者相談窓口を開設し、同年11月から若者相談窓口「ココ☆カラ」として、ニート・ひきこもり・不登校等の困難を抱える子ども・若者やその家族の支援に取り組んでいる。

令和5年度は、新規相談件数111件、継続相談件数733件の相談があった。前年度に比べて2.8%の増、継続37.5%の減、合計34.1%の減となった。

相談・支援活動としては、相談者に適切な支援機関を紹介する等、教育プラザを居場所として多様な体験活動等を通して自己肯定感や自信を養うとともに、就労に向けた支援を継続的に行った。窓口に来ることが困難なケースには、アウトリーチを実施し、加えて、静岡方式と呼ばれる伴走支援等相談者に寄り添う支援を行った。

令和6年度も引き続き、関係団体との連携を深め、予防的な観点から中高生等にアプローチしたり、若者に対する支援者（サポーター）を増やすなどしたりしながら、相談者の支援に当たっていく。

5 青少年キャリア教育事業「ミライつく〜る in Fuji」の実施【社会教育課】

富士市・雫石町少年交流事業の関連プログラムとして、ANAグループとの協働により、航空業界のキャリア教育プログラム「ミライつく〜る in Fuji」を実施した。現役のパイロットやキャビンアテンダントなど5職種の仕事体験講座を通じ、仕事の大切さ、想いを伝えてもらい、子どもたちが「夢を持つこと」、「夢に向かって努力すること」などを学ぶ貴重な機会となった。

6 青少年育成ボランティア養成講座「Play & Lead」の実施【社会教育課】

富士市の青少年健全育成事業等にリーダーとして参画できる人材を育成することを目的に、令和5年度には大幅な見直しをしたうえで実施した。青少年活動団体「ふじかわっこ！ZERO 遊び塾」のプログラムに参加したり、自分たちでプログラムを立案したりするなどして、子どもたちと関わるスキルを学んだ。